

2011年10月11日
東京急行電鉄株式会社
株式会社東急文化村

2012年7月「渋谷ヒカリエ」にオープン！
「東急シアターオーブ」オープニング・ラインナップ記者発表会

2011年10月11日(火) 於:セルリアンタワー東急ホテル



National Tour of West Side Story. © Joan Marcus, 2010.



Million Dollar Quartet Original Broadway Cast (Photo by Joan Marcus)

株式会社東急文化村が運営する「東急シアターオーブ」は、東京急行電鉄株式会社が事業を推進している渋谷駅直結の高層複合施設「渋谷ヒカリエ」の中核施設、そして「日本一訪れたい街・渋谷」「エンタテインメントシティしゅばや」のシンボルとして、2012年7月18日に開業します。

1,972席という国内最大級の席数を有しながらも、観やすさと聴きやすさを追求し、ミュージカルや音楽劇の上演に最適な劇場は、観劇文化の裾野を日本からアジアへと広げる中心的な役割を果たしていきます。

今回、「東急シアターオーブ」にふさわしいラインナップとして、こけら落とし公演となるブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」をはじめ、初来日となる新作ロックンロール・ミュージカル「ミリオン・ダラー・カルテット」ほか、話題性に富んだ計8作品をオープニング・ラインナップとして決定し、東急文化村 取締役社長 渡辺 惇と専務取締役 仁田 雅士が、2011年10月11日(火)に発表。会場には約380名の報道関係者、興行関係者が集まりました。

発表会にて社長の渡辺は、「我々は『街づくり』の中に『文化』という評価軸を持って事業経営する企業集団です。日本一訪れたい街・渋谷をつくっていく上で、その文化の『核』となる施設がこの東急シアターオーブであると考えております。人が集まる場、というのは人の『気』が入っている場所です。我々がこの施設に入れる『気』が何たるかを、この機会にご紹介できればと思います」と語り、専務の仁田は、「今後、東急シアターオーブでは、過去の実績や名前、海外や国内という枠にとらわれず、優れた作品を取り上げていきたいと考えております。渋谷やその周辺にある劇場とも共存を図り、東急シアターオーブが文化情報発信の原動力になることを目指していきます」と語りました。

【 質疑応答の内容 】

Q: 周辺の劇場との共存について、具体的にどう考えているのか？

A:(仁田)ニューヨークのブロードウェイのような場所を目指したいと考えています。沢山の劇場があり、各々が成立しているからこそ活気生まれます。一時競争が生まれる局面があるかも知れませんが、お互いがお互いを盛り上げられるような関係を目指したいと考えております。

Q:1 作目に「ウエスト・サイド・ストーリー」、2 作目に「ミリオン・ダラー・カルテット」を選んだ理由は？

A:(仁田)「ウエスト・サイド・ストーリー」に関しては、音楽的にも演劇的にも完成度の高い作品であること、それ以前のミュージカルのイメージとは一線を画す革新的な作品であるということ、それが新しい劇場のオープニングにふさわしい作品だと考えた理由です。

また、「ミリオン・ダラー・カルテット」は、昨年ブロードウェイで開幕した新作であり、聴く要素が多いミュージカルと言えるので、ある意味、「ウエスト・サイド・ストーリー」と対極にある作品かと思えます。東急シアターオーブの基本理念が「観ること・聴くこと」なので、まずこの2つの作品をご覧になっていただければ、当劇場の素晴らしさを感じていただけたと思います。

Q:ミュージカルのファンの裾野を広げるための施策・アイデアは？

A:(仁田)今後、相互直通予定の東急東横線や東京メトロ副都心線など、計 8 路線が集まる立地条件を活かし、利便性の良い劇場という魅力を打ち出していきたいと考えています。また、よりミュージカルを身近に感じていただけるような親しみやすい企画を打ち出して行く予定です。東急グループの様々なネットワーク使って、お客さまのご要望にお応えできるような情報を発信していきたいと考えております。



取締役社長 渡辺 惇



専務取締役 仁田 雅士

東急シアターオーブ オープニング・ラインナップ詳細、東急シアターオーブ概要、渋谷ヒカリエ概要については、別紙をご参照ください。

引き続き、東急シアターオーブならびに渋谷ヒカリエの今後の展開にご期待ください。

< 別紙 1 >

東急シアターオーブ オープニング・ラインナップ一覧

NO	作品名	公演期間	作品概要
1	WEST SIDE STORY ウエスト・サイド・ストーリー	2012年7月18日～8月5日 (予定)	1957年初演以来、たえず観客に感動を与え続け世界中で愛されてきた現代ミュージカルの原点とも言える作品が、48年振りにブロードウェイ版として来日決定！作品の生みの親のひとりである脚本家のアーサー・ローレンツがこだわりを持って初演版の舞台を復活させた最新プロダクションが日本に初上陸します。 脚本&オリジナル・ブロードウェイ・リバイバル演出：アーサー・ローレンツ 音楽：レナード・バーンスタイン 作詞：スティーブン・ソンドハイム 原案&初演時振付：ジェローム・ロビンズ ツアー演出：デイヴィッド・セイント 振付再現：ジョーイ・マクニリー 主催：東急文化村、TBS、ローソンHMVエンタテインメント、VIS A VISION 問合せ：東急文化村 03-3477-0195
2	MILLION DOLLAR QUARTET ミリオン・ダラー・カルテット	2012年9月上旬～中旬	2010年ブロードウェイで大ヒットを記録し、トニー賞を受賞したロックンロールミュージカルが、「東急シアターオーブ」開業記念公演として初来日！1956年12月4日、エルビス・プレスリーらロックンロールの四天王が集結した「一夜限りのセッション」の裏側に迫る真実の物語。彼らの自負と対立、そして空前絶後の競演が、「ブルー・スエード・シューズ」「ザッツ・オール・ライト」ほかロックンロールの不朽の名作に彩られ現代によみがえります。 脚本：コリン・エスコット、フロイド・マトラックス 編曲・音楽監修：チャック・ミード 原案&演出：フロイド・マトラックス 演出：エリック・シェファー 主催：東急文化村、TBS、ローソンHMVエンタテインメント、サンライズプロモーション東京 問合せ：東急文化村 03-3477-0195
3	ROMÉO & JULIETTE ミュージカル ロミオ&ジュリエット	2012年10月6日～21日 (予定)	日本中を感動の渦に巻き込んだミュージカル「ロミオ&ジュリエット」(G・プレスギルヴィック作)。宝塚歌劇版(2010・11年)、日本人キャスト版(2011年)に続き、いよいよ本場フランス版が初上陸。2012年10月6日(土)～21日(日)東急シアターオーブで上演決定！世界各地で500万人が熱狂した、ヨーロッパ最強のPOP&ROCKなヴォーカルと、華麗でアクロバティックなダンスで綴るエンタテインメントです。 主催：TBS、ホリプロ、東宝、梅田芸術劇場 問合せ：梅田芸術劇場 03-3503-5815(東京) / 06-6377-3800(大阪)
4	ELISABETH: GALA CONCERT ウィーン版ミュージカル「エリザベト」 20周年記念 スペシャル ガラコンサート	2012年10月下旬	2007年春、オリジナルプロダクションによる日本招聘公演を果たし、日本のミュージカル史上に一大センセーションを巻き起こし絶大な人気を誇るミュージカル「エリザベト」。 1992年、オーストリアのアン・デア・ウィーン劇場での初演以来、各国で上演され、日本でも1996年の宝塚歌劇団による日本初演以降、今なお多くのファンを惹きつけ続けている本作品が、2012年に上演20周年を迎えます。その記念すべき年に、ヨーロッパで活躍する豪華オリジナルキャストによるウィーン・ミュージカル「エリザベト」20周年記念 ガラコンサートを上演します。 主催：梅田芸術劇場 問合せ：梅田芸術劇場 06-6377-3800
5	ELISABETH: GALA CONCERT ～ TAKARAZUKA WAY TO 100th ANNIVERSARY ～ 「エリザベト スペシャル ガラ・コンサート」	2012年11月上旬～中旬	1992年のウィーン初演より2012年で20周年を迎えるミュージカル「エリザベト」。 2006年に上演いたしました「エリザベト10周年ガラコンサート」と同様、「エリザベト」に出演経験がある宝塚卒業生を中心に、珠玉の名曲を歌い継ぐ見応えのあるスペシャル・ガラ・コンサートです。 主催：梅田芸術劇場 問合せ：梅田芸術劇場 03-3503-5815(東京) / 06-6377-3800(大阪)
6	BURN THE FLOOR バーン・ザ・フロア	2012年12月	ブロードウェイ、ウエストエンドをはじめ世界中の観客を虜にしているダンス・エンタテインメント「Burn the Floor」の最新版。濃密でハイレベルなダンス・パフォーマンス、多彩な楽曲、魅力的な衣装・・・常に新しい試みにチャレンジし、進化を続けるエンタテインメントです。パワフルでエネルギー溢れる圧巻のステージは、客席と一体となって燃え上がること間違い無しです！ 企画招聘：関西テレビ放送 問合せ：サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(10:00～19:00)
7	GEKIDAN SHINKANSEN 劇団 新感線公演(タイトル未定)	2012年12月	詳細は近日発表予定
8	JOSÉ CARRERAS CONCERT ホセ・カレーラス コンサート(タイトル未定)	時期未定	詳細は近日発表予定

<別紙2>

「東急シアターオーブ」(以下、当劇場)の施設概要

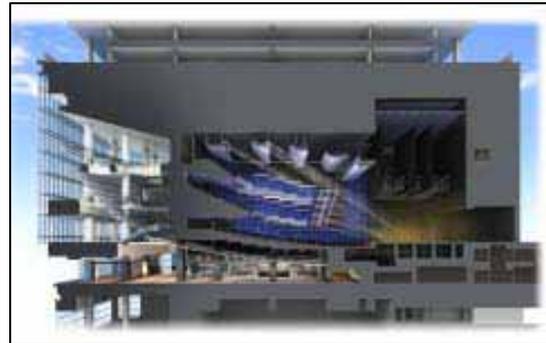
当劇場は、渋谷ヒカリエの11～16階に位置する、総客席数1,972席(1～3階席)の劇場です。地上約70mの高さから渋谷の街を一望できる開放的なホワイエと、浮遊感をコンセプトに空の濃紺と雲の白でデザインされた客席空間が当劇場の大きな特徴です。ホワイエから続く中央階段を渡って球形のラウンドフレームをくぐると、濃紺と白の客席空間が突然現れるという、非日常の世界へドラマティックにいざなう導線計画にも留意しました。

当劇場の設計設備計画においては、「電気音響に最適な質の高い音響空間」、「斬新な演出を生み出す懐深い舞台空間」、「多様な演出に対応する強力で柔軟な吊機構」、「新鮮な視覚体験を可能とする新しい照明技術」をテーマに、ミュージカルや音楽劇の新たな魅力を創出する劇場を企図しています。

複合ビル内に位置する当劇場では、最新の建築技術を駆使した浮き床構造による防振遮音対策を施すとともに、舞台照明や美術道具等の搬出入においても、11トン車が停車可能な荷捌きに加え11トン車相当の積載物が搬送可能な大型エレベータが舞台袖まで直通しており、機能面と利便性に十分に配慮しています。



客席イメージ



劇場断面

「東急シアターオーブ」名称、ロゴマークについて

「東急シアターオーブ」の名称は、「天にそびえる劇場」という意味で、“Orb”(球体、古 天体、地球)に由来します。渋谷の中心に位置し、近未来的な球体のフォルムと宙空に浮かぶ劇場の特徴、かつての五島プラネタリウムのDNAを引き継ぐ施設としての思いを込めています。

ロゴマークのデザインは、劇場の特徴である球体のフォルムを想起させる「Orb」の3文字を中心に、都会的な洗練さと新しさ、約2,000席を擁する劇場としての品格を表現しています。

TOKYU
THEATRE
Orb

<別紙 3>

「渋谷ヒカリエ」の概要

(1) 渋谷を代表する情報発信拠点に相応しい用途構成

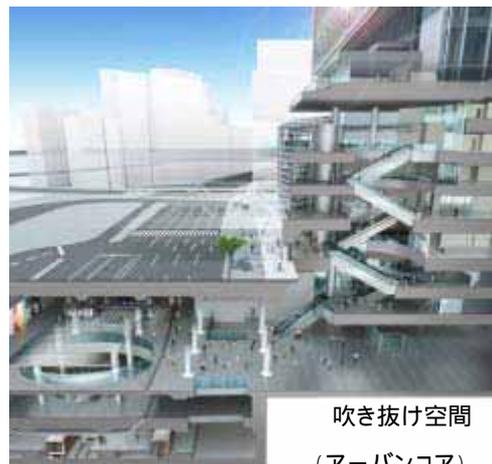
渋谷ヒカリエは、地上34階、地下4階の高層複合施設で、鉄道8路線が乗り入れる日本有数のターミナルである渋谷駅東口に位置します。都内初のプラネタリウムや画期的な大劇場「パンテオン」をはじめとした複数の映画館などで構成され、最先端のライフスタイルを提案してきたかつての東急文化会館のDNAを引き継ぎ、中層部の文化施設には約2,000席の本格的ミュージカル劇場「東急シアターオーブ」、情報発信性の高い様々なイベントに最適な1,000㎡および300㎡のイベントホール「ヒカリエホール」、才能あふれるアーティストの表現の場「クリエイティブフロア 8/(ハチ)」を設置しています。またビルの顔となる商業施設には、東急百貨店が出店します。高層部にはオフィスを配し、次の時代を担うような企業を集積させ、建物全体で新たな価値を創造し、街の情報発信拠点となることを目指します。

(2) 渋谷の街全体の活性化、環境を意識した施設計画

渋谷ヒカリエでは、周辺の坂状の地形を活かし、渋谷駅や明治通り、宮益坂、青山方面等、渋谷の街の個性を演出する多様な街と、5つのフロアで接続する歩行者ネットワークを形成するとともに、縦方向の移動を容易にする地下3階から地上4階に亘る吹き抜け空間(アーバンコア)を整備することを予定しています。特に、東急東横線・東京メトロ副都心線渋谷駅とは地下3階で直結するなど、街の交通結節点としての利便性を高めるとともに、周辺街区との回遊性や賑わいの創出を通じて渋谷の街全体の活性化を目的とした計画であることが特徴です。また隣接する渋谷駅の自然換気機能を内包し、敷地面積の約30%を緑化するなど、先進の環境性能を備えています。



施設外観パース



吹き抜け空間
(アーバンコア)

「渋谷ヒカリエ」名称・ロゴマークについて

「渋谷ヒカリエ」という名称は、「新しい文化を輝かせる光」という意味で、日本語の“Hikari”（光）+ “～へ”に由来します。東急文化会館の文化性・先進性というDNAを受け継ぎ、渋谷の街から新しい文化を発信させるという強い気持ちを込めました。この建物とここに集まる人々、ひいては渋谷という街が、今後長きにわたって文化・ビジネスの新たな発信の中心として光り輝き、世の中を変えていく光になる、という意志も込めています。

ロゴマークのデザインには、渋谷のリーディングプロジェクトとして、未来へ導く牽引感を表現すること、「渋谷ヒカリエ」という名称のもつスタイリッシュで現代的なイメージを表現することを企図しました。丸みを帯びた細い書体と光り輝く明るいゴールド色で、渋谷のもつ自由な発想を許容する風土や、多様な価値観が交じり合い新たな価値を生み出せる柔軟性を、また、文字「Hikarie」に下から光を照らし、ロゴが昇るイメージを表現しています。

Shibuya Hikarie

<別紙 4>

計画建物の概要

事業主体	渋谷新文化街区プロジェクト推進協議会 東京急行電鉄株式会社 東京地下鉄株式会社 東宝不動産株式会社 田中ビル株式会社 嘉栄ビル株式会社 株式会社ヒラゼンビル
所在	東京都渋谷区渋谷二丁目21番地ほか
用途	商業、オフィス、文化施設、駐車場ほか
敷地面積	約9,640m ²
延床面積	約144,000m ²
用途別面積	商業 約32,000m ² オフィス 約50,000m ² 文化施設 約24,000m ² その他 約38,000m ²
階数	地上34階、地下4階
高さ	約182.5m
予定工期	本体工事 2009年7月～2012年春 関連工事 2012年春～2017年春
設計	株式会社日建設計・株式会社東急設計コンサルタント共同企業体
施工	東急・大成建設共同企業体
開業	2012年春(予定)

フロア構成

地下3F～地上7F	商業施設
8F	クリエイティブフロア 8/(ハチ)
9F～10F	イベントホール「ヒカリエホール」
11F	スカイロビー(オフィス・劇場エントランス)
11F～16F	劇場「東急シアターオーブ」
17F～34F	オフィス



渋谷ヒカリエ完成後俯瞰イメージ



計画位置図